

国際交通安全学会 設立三十周年に際して



国際交通安全学会副会長 土橋 哲

私が国際交通安全学会の活動に参加いたしましたのはごく最近のことですが、学会が設立三十周年を迎えるこの時期に、副会長として学会のお手伝いをさせていただけることは、たいへん光栄なことと感じております。

これまで、主に、社会に利便性と豊かさをもたらす移動体としての自動車を提供する立場から交通を見てきましたが、国際交通安全学会の活動に参加するようになり、交通全体をさまざまな角度から検証することによってまったく新しい見方、価値観が生まれることを実感として感じるできるようになりました。

自動車を研究開発し、生産販売するなかでも交通手段としての安全性、利便性、快適性といったものとともに、環境への適応性などを考え、企業としてできる限りの努力は続けてきておりますが、交通問題にははかりしれない広さと深さがあり、多くの要素が複雑に絡み合った問題に的確な対処をしていくためには企業の枠を越え、多くの専門分野が有機的に結びついた研究を進めていくことが必要になります。国際交通安全学会の活動は、まさにそのニーズを反映したものであり、多岐にわたる専門分野の研究者によって進められた学際的研究の成果は、多くの社会的貢献を果たしてきております。日本のモビリティ社会が発達し、その発展がもたらす負の影響が社会問題化し始めた30年前に、このような新しい科学を誕生させ、活動を実現させた方々の先見性と、理念、そして粘り強い努力に改めて頭の下がる思いがいたします。

交通問題に関する学際的研究は、今後もさらに発展させていくべきものであり、国際交通安全学会は国内・外の研究者のいっそうの交流を支援し、自由・平等の立場での活発な研究を推進して社会にさらなる貢献をしていきたいと存じております。30年を越え、時代を担う若き研究者がさらなる発展を目指すためにも、皆様の一層のご協力をお願いいたします。